

【学園研 (B)】

1. 研究課題名

授業支援システムを利用した授業方法の改善

2. 研究代表者

所属学部：教育学部

職名：准教授

研究代表者氏名：坂本 徳弥

3. 研究分担者

なし

4. 研究成果の概要

(1) 研究目的

eラーニングは、全国910の高等教育機関のうち465校(51.1%)実施されている(メディア教育開発センター、2008)。本学においても、ポータルサイトに授業支援システムがあり、eラーニング機能が充実しているが、利用している教員は少ないのが現状である。そこで、筆者が担当する「教育の方法と技術」の授業において、eラーニングを導入してその効果を検証するとともに、eラーニング導入時の問題点を実践的に探ることとした。なお、本学情報支援課と授業支援システムを管理している富士通に調査して頂いたところ、平成20年度前期にeラーニングのレポート機能、テスト機能を利用したのは本学では筆者1人であった。

(2) 研究計画・方法

4～7月 「教育の方法と技術」の授業の中で、eラーニングが可能な授業支援システム「Campusmate/CourseNavig」をS*mapから用いて、学生達(75名)に、復習テスト機能、レポート提出機能を使った学習をさせる。

9月 授業支援システムに関する項目を中心としたアンケートを学生達に実施し、eラーニングの効果と問題点をさぐる。

10～11月 復習テストの実施状況、レポート提出機能の使用状況、eラーニングでつまづいている学生達への指導記録等を分析し、教育情報学会へ発表する。また、学園紀要論文にまとめる。

(3) 研究成果

学生達の復習テスト実施率は89%で少し低かったが、得点平均は98点で高かった。また、eラーニングによる復習テストについて質問紙法により評価させたところ、「役に立った」「点数や正答がすぐにわかる」「レポートをパソコンで提出できる」「レポートの評価を返してくれる」というeラーニングの利点が評価された。反対に、「楽しかった」「知識が定着した」の項目の評価があまり高くなく、テスト内容等の更なる工夫が必要であると感じた。

授業支援システムのレポート提出機能については、96%の学生がS*mapから提出でき、授業の中で十分に利用できることが確かめられた。しかし、残り4%(3人)の学生は、操作方法がよくわからなくて提出することができず、メールの添付ファイルで提出した。また、S*mapで提出しても、本当にレポートが届いたかどうか不安な学生が6人いたが、初めて経験するシステムであるので、仕方のないことであろう。授業支援システムのレポートの画面をよく見れば、自分のレポートが「提出」か「未提出」が表示されているので、授業支援システムの使い方をよく説明するとともに、いろいろな科目で慣れてもらうことが必要と思われる。

教員としては、復習テストの問題を考えることよりも、レポートの評価とコメントを授業支援システムに入力するのが大変であった。何故なら、復習テストは答えが明確であるが、レポートはコメントの意図を正確に学生に伝えるのが難しいからである。ゼミで指導する場合は別であるが、受講生が多い講義科目では、誤解を避けるためにレポートの欠点を指摘するよりも励ます方向でコメントした。また、従来、講義終了後に学生を集めてレポートを返却することは困難であったが、授業支援システムを使えば簡単にレポートの評価とコメントを学生に返すことができるので、とても素晴らしいことだと実感した。

以上のことから、授業支援システムの導入は、学生達を継続的に学習させ、レポート等の提出物の評価情報を学生達に簡単にフィードバックできるという点で効果があることがわかった。ただし、パソコン等の機器操作が苦手な学生もいるので、わかりやすい操作説明とともに、友達や教員に気軽に相談できる雰囲気づくりも大切だと思われる。

調査にご協力頂いた情報支援課の田中様、富士通の酒井様に感謝申し上げます。

(4) 研究成果の発表

坂本徳弥 2008 授業支援システムを利用した授業方法の改善 日本教育情報学会年会論文集24

坂本徳弥 2009 授業支援システムを利用した授業方法の改善 相山女学園大学研究論集 第40号 社会科学篇